

児童アンケート結果から見る 安全科の成果と課題について

大阪教育大学附属池田小学校

指導教諭 山崎 雅史

はじめに・目的

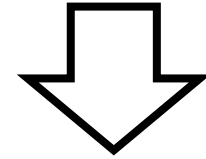
本校では、全学年で年間15時間以上、安全科の授業を実施している。

安全科の授業づくりにおいて大切にしていることは、
‘わかっているけど、できない’からいかにして‘わかっているからできる’に行動変容させることができるかということである。

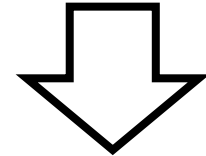
まもなく卒業を迎える6年生は、これまで安全科の授業を90時間以上受けてきたことになる。そこで、6年生児童が、安全に対してどのような意識を持ち、生活を送っているのかということを明らかにし、改めて本校で行っている安全科の成果と課題を把握することを目的として、本研究を行った。

教育課程特例校の申請・認可（平成21年）

「生活」「総合的な学習の時間」「特別活動」の一部を組み替え、安全科を設置



年15時間で出来るカリキュラムの開発



全学年で「安全科」の授業実践

研究方法

対象者

本校に通う
小学6年生児童 100名
(有効回答 93名)

調査方法

安全に関する質問紙調査
(12項目からなるアンケート)

調査時期

2021年2月上旬

分析方法

単純集計
自由記述集計
(テキストマイニング)

アンケート調査の内容

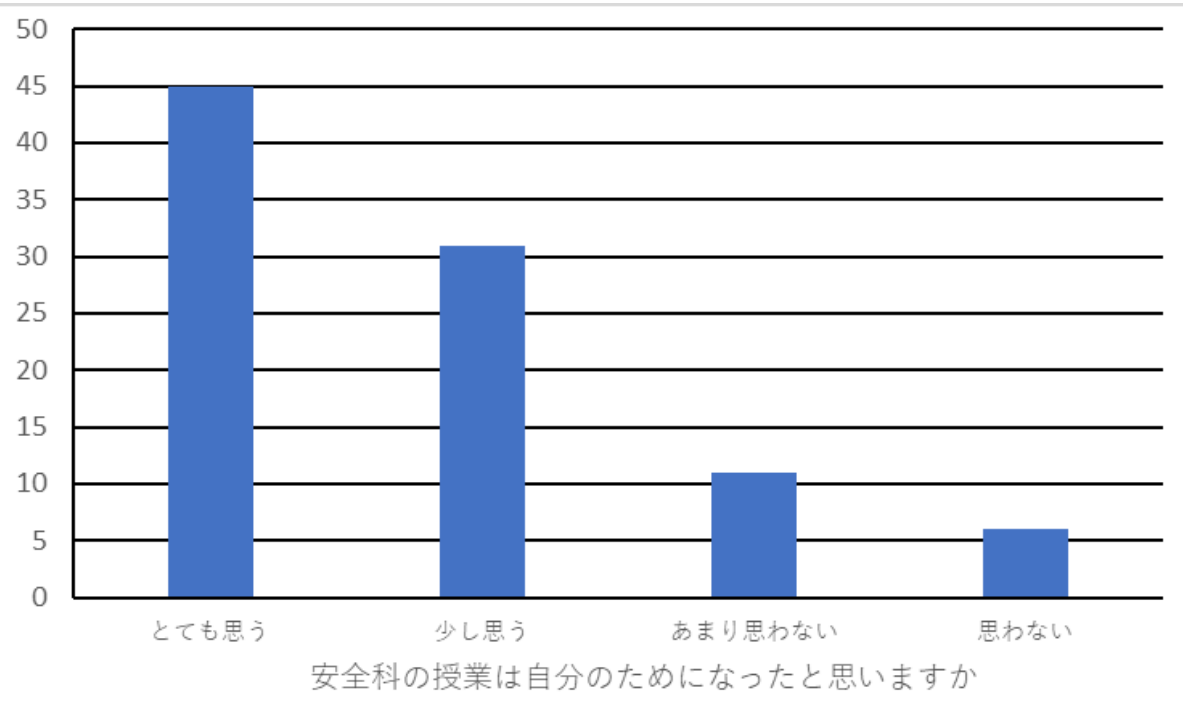
安全科の授業について

安全に対する興味・関心について

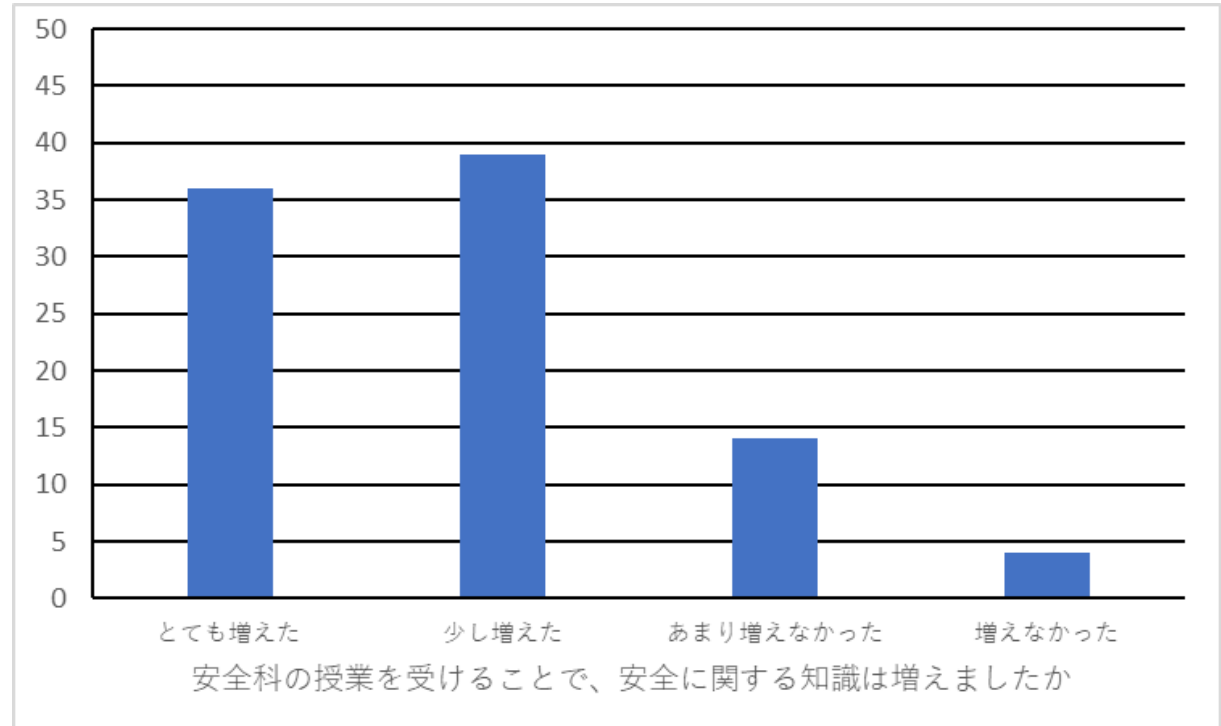
安全に関わる行動力について

結果

安全科の授業について



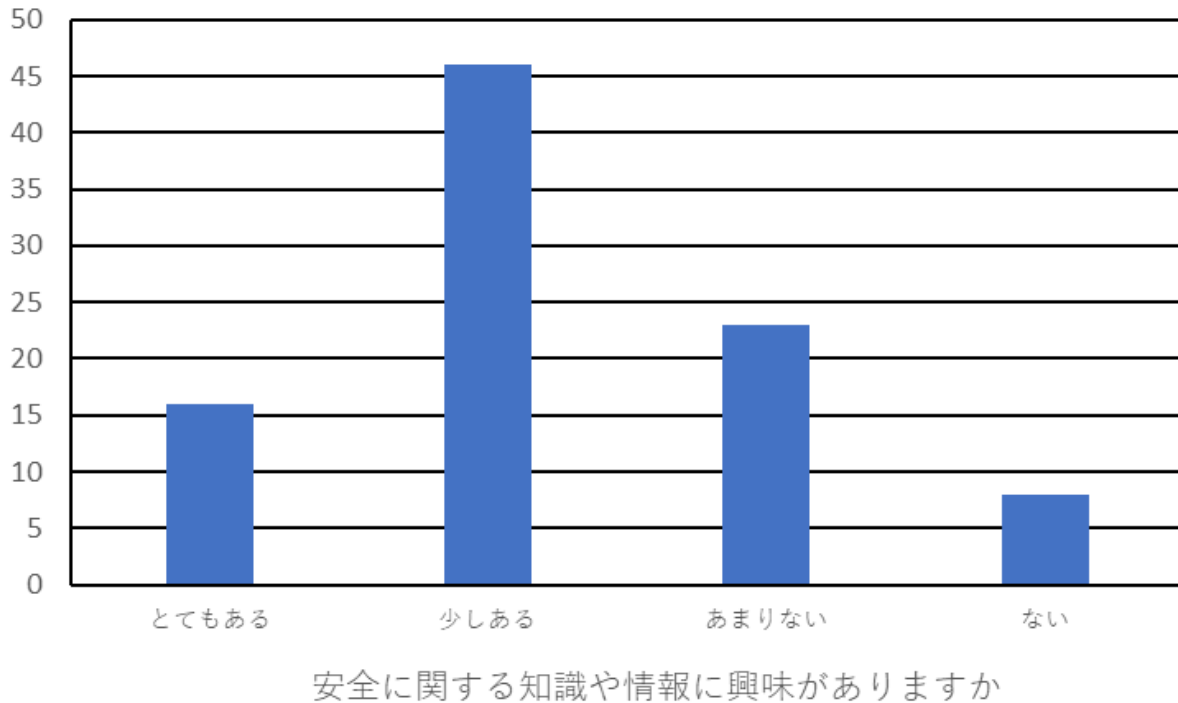
安全科の授業は自分のためになったかと思いかという質問に対して、約8割の児童が「とても思う」「少し思う」と回答した。



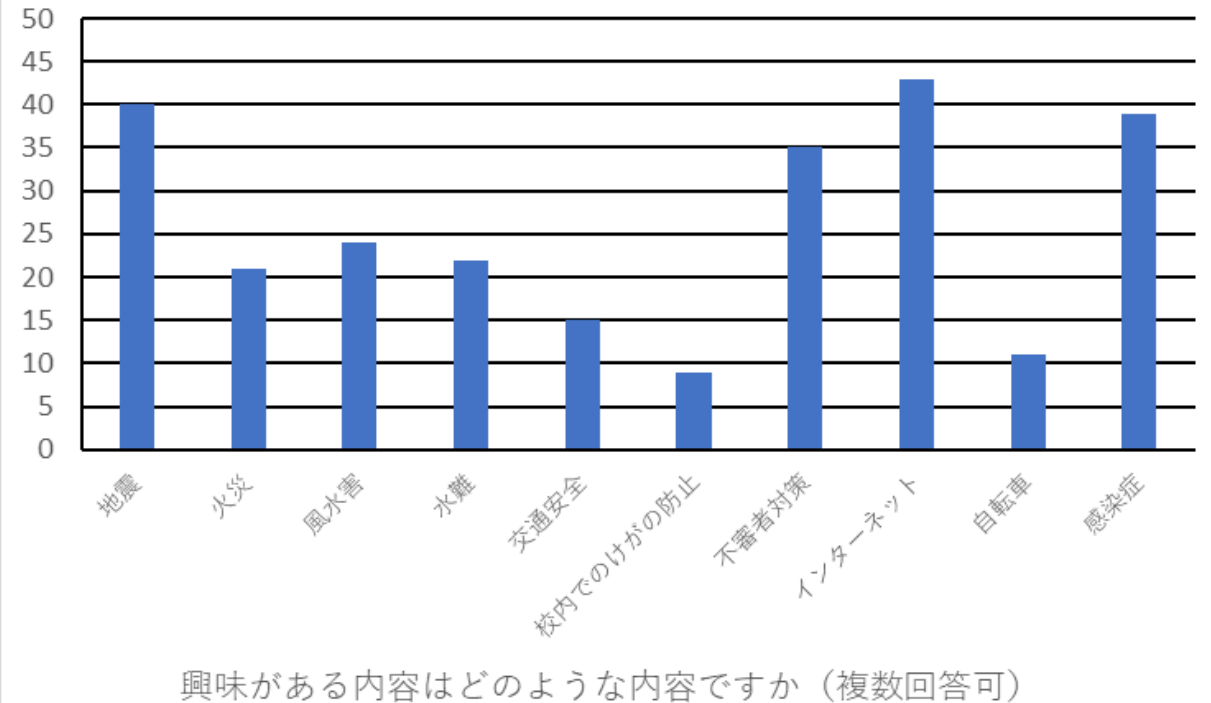
安全科の授業を受けることで、安全に関する知識は増えましたかという質問に対して、約8割の児童が「とても増えた」「少し増えた」と回答した。

結果

安全に対する興味・関心について



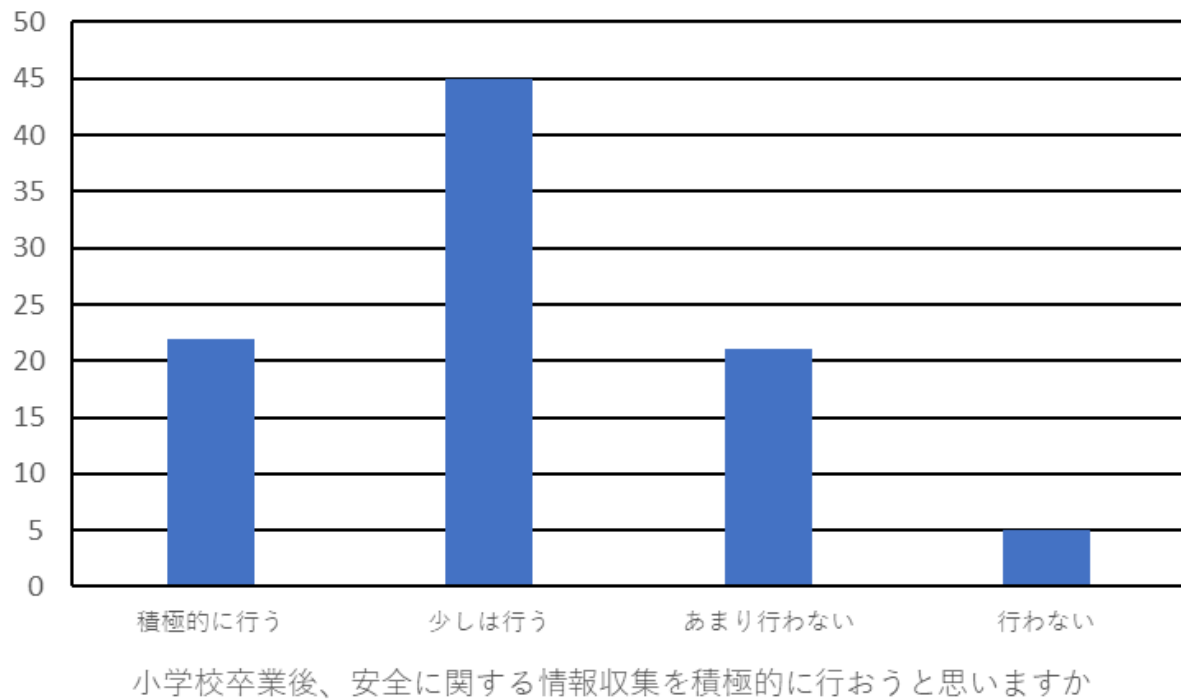
安全に関する知識や情報に興味がありますかという質問に対して、半数以上の児童が「とてもある」「少しある」と回答した。



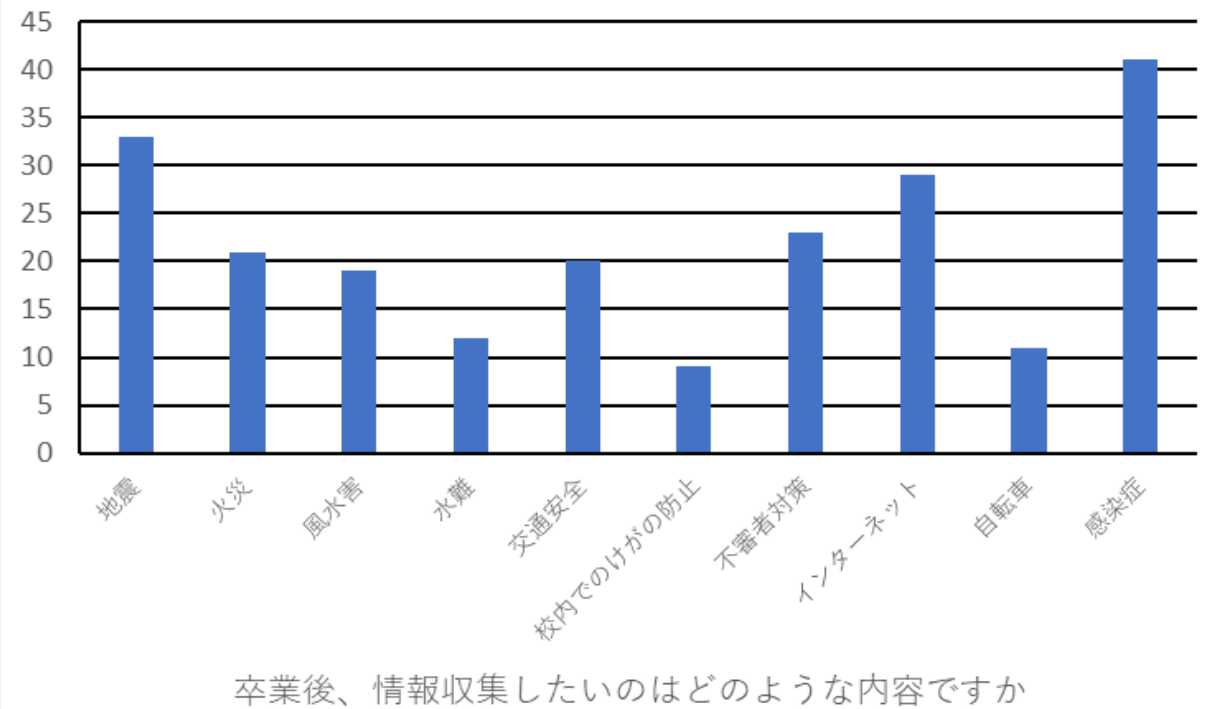
興味がある内容については、インターネット、地震、感染症、不審者対策の順で多かった。

結果

安全に対する興味・関心について



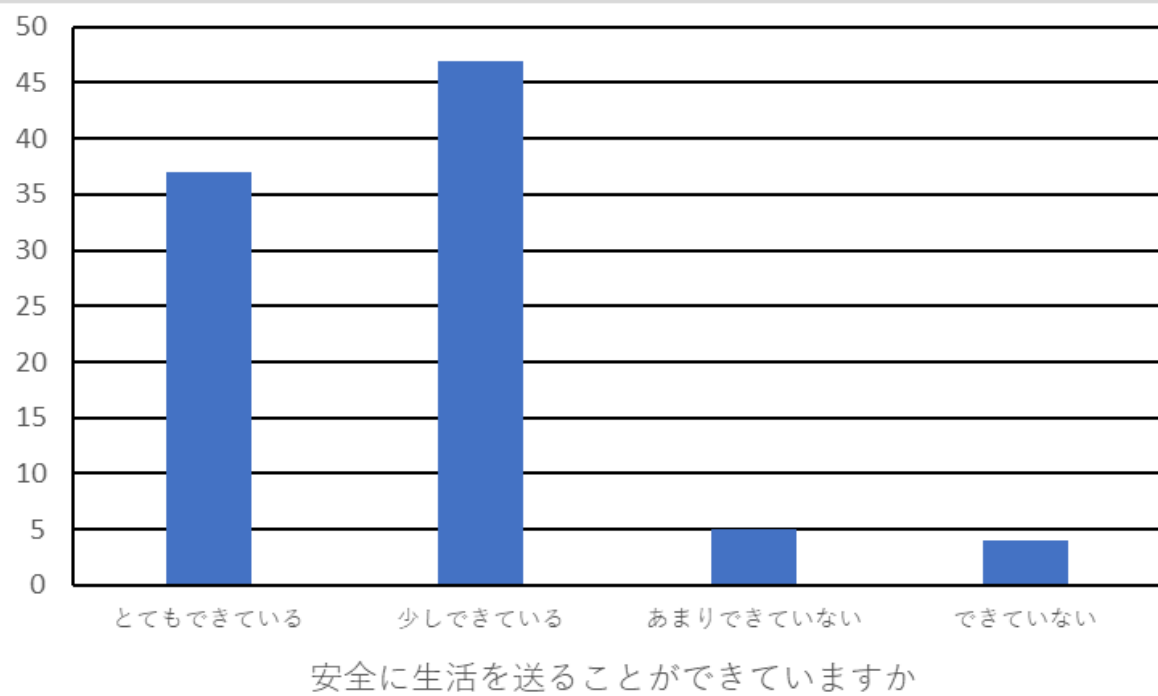
小学校卒業後、安全に関する情報収集を積極的行おうと思いますかという質問に対して、約7割の児童が「積極的に行う」「少しは行う」と回答した。



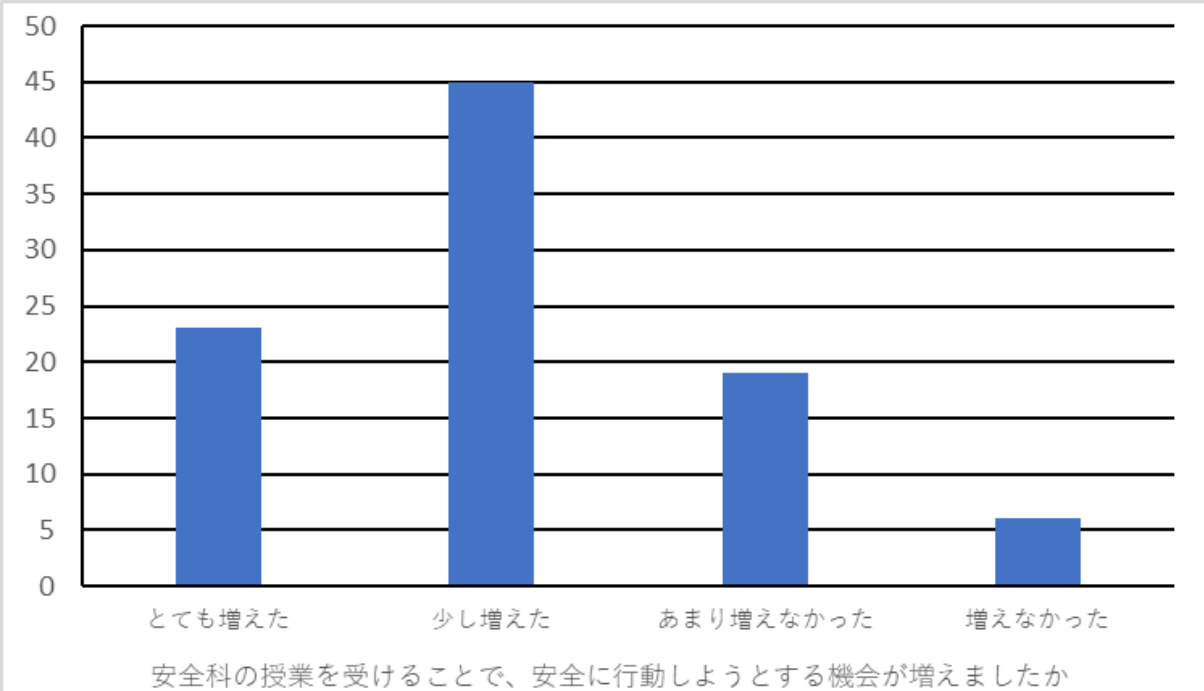
小学校卒業後、積極的に情報収集したい内容については、感染症、地震、インターネット、不審者対策の順で多かった。

結果

安全に関わる行動力について



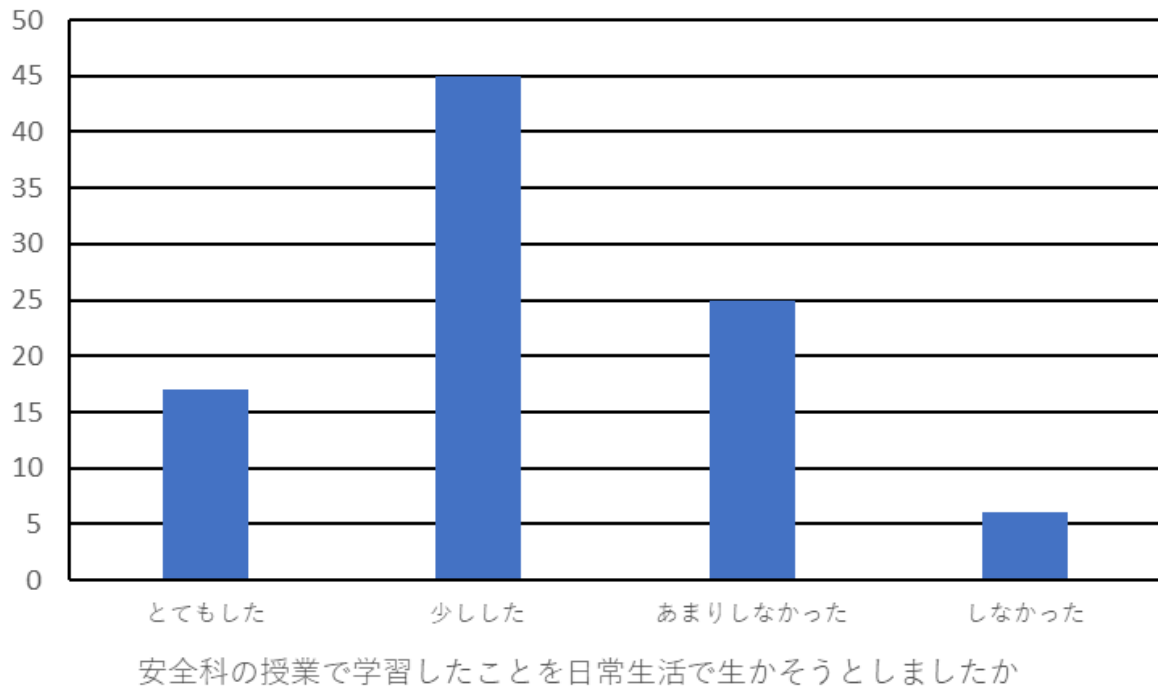
安全に生活を送ることができますかという質問に対して、約9割の児童が「とてもできている」「少しできている」と回答した。



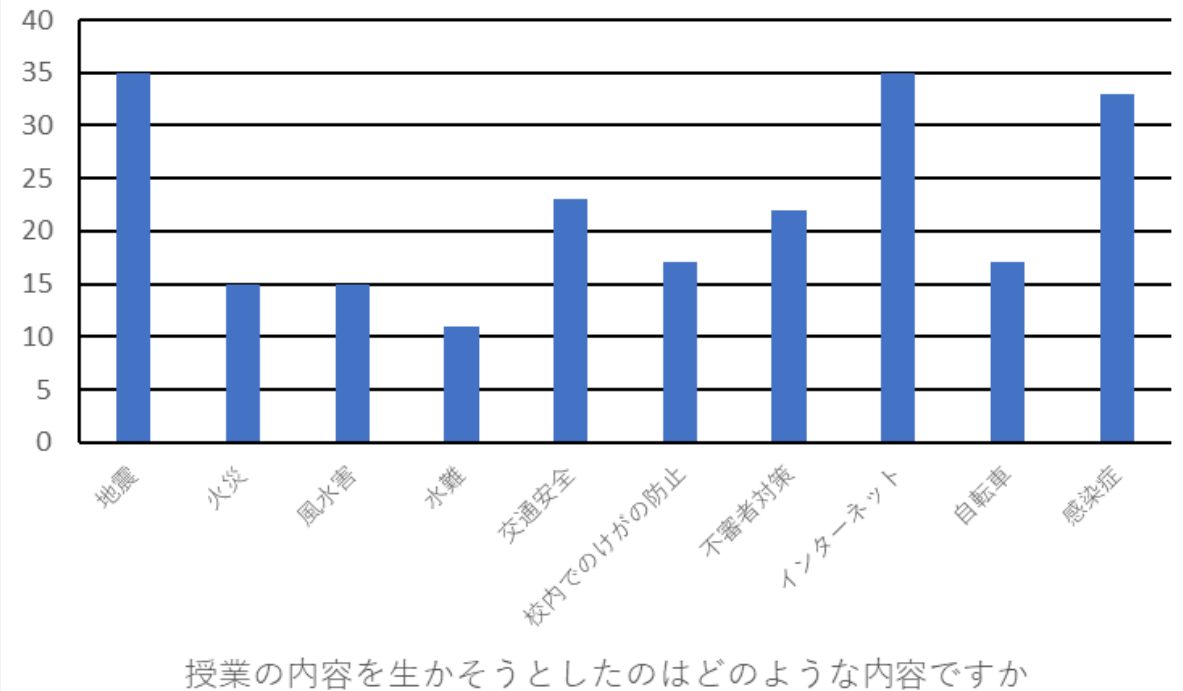
安全科の授業を受けることで、安全に行動しようとする機会が増えましたかという質問に対して、約7割の児童が「とても増えた」「少し増えた」と回答した。

結果

安全に関わる行動力について



安全科の授業で学習したことを日常生活で生かそうとしましたかという質問に対して、半数以上の児童が「とてもした」「少しした」と回答した。

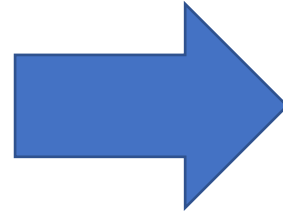


日常生活で生かそうとした内容については、地震、インターネット、感染症、交通安全の順で多かった。

結果

印象に残っている授業と理由について (テキストマイニングにより集計)

インターネット関連 (17)
地震・津波について (13)
自転車について (11)
感染症について (10)
(AED、風水害・土砂災害、
避難所についてなど)



身近なこと (13)
インターネット (9)
動画が印象的 (8)
感染症 (7)
地震が多い (5)
(体験、新たな知識、今後のためなど)

扱って欲しかった内容について

インターネットについて (10)
感染症について (6)
不審者に関すること (4)

交通安全について (3)
地震に関すること (2)
いじめに関すること (2)

成果

- 安全科の授業を実施することで、約 8 割の児童が安全に関する知識を増やし、自分のためになっているということが明らかとなった。
- 安全科の授業としては、児童の生活に身近な内容（インターネット関連、地震・津波、自転車、感染症など）や動画を活用した授業が印象に残っているということが明らかになった。
- 印象に残っている授業と同様で、児童の生活に身近な内容（インターネット関連、地震・津波、感染症など）に興味・関心が高いことが明らかとなった。
- 児童は生活に身近な内容について、特に行動に移しやすいということが明らかとなった。



- 安全科の授業を実施することは、児童の安全に関する知識を増やし、関心を高めることにつながっている。
- 児童の生活に身近な内容に興味を示しやすく、さらに、行動変容に促しやすい。
- 動画を活用した授業は、児童の印象に残りやすい。

課題

- 安全科の授業を楽しくないと感じている児童が半数くらいいた。児童が身近に感じ、より興味を持つことができるような授業づくりや展開をすることが必要である。
- 児童が身近にとらえ、自分事として考えられるような工夫をすることが重要である。
- 年間カリキュラムがある中で、突発的な内容（今年度のコロナのようなもの）をどのように扱うか。
- 児童の生活に身近ではなく、自分事として捉えにくい内容を扱うときには特に工夫が必要である。